

ま え が き

グローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）日本語論集 36 号が刊行されました。報告 5 件が収録されています。

2019 年度筑波大学には、約 120 の国・地域から、約 2,600 人の外国人留学生在籍していましたが、本年度は新型コロナ禍の影響で、2,100 名あまりとなっています。本年度はどこの大学もオンライン教育で対応してきたかと思えます。インターネット環境、時差という外的要因を踏まえて、教育方法、学習効果など新しい取組が必要となりました。

インターネットを介した教育については、文部科学省より認定を受けてきた、大学間共同利用拠点「日本語・日本事情遠隔教育拠点」が、令和 2 年 4 月より新たに 5 年間、第 3 期が始まり、教育コンテンツ開発などオンライン教育の必要性に向き合います。合わせて、日本学術振興会 (JSPS) 研究拠点形成事業 B. アジア・アフリカ学術基盤形成では、ウズベキスタン、エジプト、カザフスタン、ベトナムの大学と共同して「社会的要請に対応可能な日本語教師養成の拠点形成」に取り組んでいます。

本論集をはじめとする日本語教育に関する日頃の研究成果が、広く学内外の日本語教育関係者の貴重な資料となることを期待しております。

2021 年 3 月

筑波大学
グローバルコミュニケーション教育センター
日本語教育部門長 小野 正樹